磐城新聞

休刊　大祭日第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　一行五十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

我が子の自然教育

城山の宇宅で　木村學徒

自然に接觸させることが教育上極めて有効である事は、すこしく教育の爲に志ある人の何人も認めてゐる處である、然し自然に親しませる事が讀みかき算術をどれ程上達させるかといふと、それは何ともいへない。で子供達は教育上いゝ事であると考へらるゝ事でも實際には餘りやつて貰へない、かくして子供たちは自然から引離されて專ら雜誌やノートに引つけられ少年少女はその鋼鐵の生活を奪はれて行く。

子供は早くから繪雜誌に親しみ假名を教へられ、數ふる事を强ひられ、或は技術的になり、こせ〳〵した利巧ものとなり、才子となり、はてはウソつきの上手となり、うまくやることを覺え。要領のよい人間となつて出世をす。そして資本家のおひげのちりを拂ひ或は資本家となり或は器械力を增大せしめて物質を謳歌する一人となる。これは誠によい事であらう。然し恐ろしいことである。それを恐れる事の最も大きい私たちは特にこゝに親自然の教育を提唱する親自然の教育とは自然に親しませる教育だ。昔ながらの土と水と陽光と空氣、これを思ふ存分に浴びる事だ。清澄な大氣の上で、てりさから陽の光りをあびゆく許り土いじり、水あそびをする事だ

自然の世界に子供達を放り投げ、思ふ樣に生活せしめるがいゝ。草むしり、ばつたとり、とんぼつり、山登りは殊にいゝ。植物も動物もどんな美しい共生の生活をなしつゝあるかが無言の裡にわかれば尚よい。山や川や町がいかにして美しい世界を作つてゐるか、それがわかれば尚おもしろい。

われ〳〵は何時も子供達を二十坪の教室内に幽閉しておかねばならぬ事はない自然は大きな教室だ。この事は誰も知つてゐる。然し自然が教室であるとは自然が科學の研究場として都合のいゝ場所だと云ふ。ごく功利的の意味にとられ易い勿論その意味もあるが大いに藝術的に意味深い事を知らねばならぬ。

自然に親炙させていた結果として、人間がすなほになりやさしくなり。人間らしさを失はぬといふ點はいふまでもないがその外に体育的に云つてどれ程力強い基礎となる事か、それに又科學的方面に於てもほんとうな自然の力といふものは、さうした生活を多くやつたものゝ方が結局は勝ちを占むる事になる人生といふ最後の場面に於ては結局自然の子が勝つであらう。

それはともかく吾々は文化の大局から見て、大いに土に親しむ教育を力說したいと思ふ。今のまゝでは結局は文化の行詰り。人間が機械化する外はない、人間が人間らしく生きるにはその郷土である土の救ひにまつ外はないと思ふみんな土に親しむがいゝ。何か生産するがいゝ土は何人にも温顔を向けてくれる

明日の吉凶

舊暦六月二七日
新暦八月二日

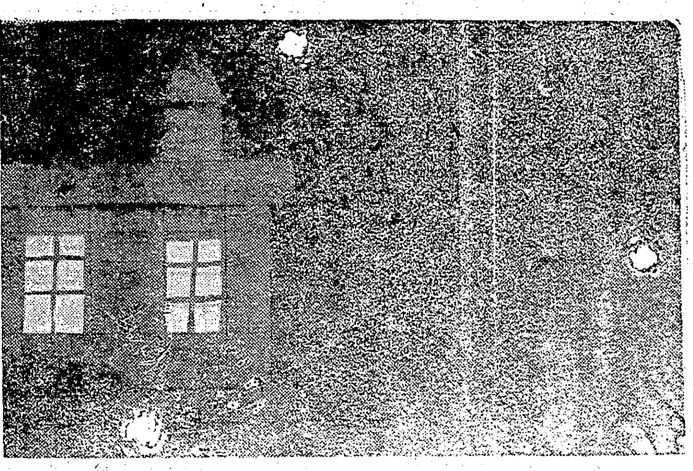
▲一白　思案せず進むが宜し願望次第に成就すべし▲二黑　急げば廻れ何事も革新すれば目先くらむ▲三碧　暫くの辛抱さへあれば後は吉日となるべし▲四綠　脇目も振らず働きて不足は言ふまじきこと▲五黄　悦びは束の間暗雲後より襲ひ來るべし▲六白　得るところ少くともみだりに進出すべし注意▲七赤　進んで得るなく退いても亦損すること多し▲八白　旣往の放言が今日に祟りて苦しみ惱みある日▲九紫　運氣堅實となり事業もます〳〵發展し行くべし

小說

死を超ゆる者

(52)　三上於菟吉作　布施平八郎畫

無邪氣な戀（四）



「實はねえ、その時私は―ほんとうに自分でちつともお金が自由にならない身の上だからありのまんまを言つて勇には氣の毒でたまりませんでしたが斷つたのでした、だけれどもこんな事になると知つたらどんな事をしてもどんな手だてをしてもこしらへてやりたかつたのに……」

和子は眞から後悔して居る樣に吐息と一緒に言つ

「じや、お兄さまは矢張り其のとき子さんの爲に身を犧牲にしたんだわね」

と妙子はつぶやいたその聲には一種異樣な深い而し決してそこには何等の嫉妬や怨みのようなものは少しもなく眞に純潔な情ぶかい心ばつかりであつた

十六歳の少女は戀人が他の女性の爲に遂行した非常な行爲を何か英雄的な振まいとして稱へて居るやうに思はれた

「勇は、其の女が金の爲めに賣り物にされるのを哀れに思つたのです。けれども私……」

さう云つて和子は妙子の顏を見ない樣につとめて窓際の隅棚の方へ目をそらした

「けれども……さうお思いなの？」と妙子は相手の膝に手をかけた

「けれども私あなたに濟まないような氣がして」

と和子は口の中で言つた

「いゝえ、そんな事は、ちつとも無いわ、お兄さまがそんなに心にかけになる樣な人ならとき子さんて方はきつと大變優しくつて美しい方なんでせう」

と妙子が言つた

「ほんとうに妙子さんは勇を許してやるの！」

と和子は改めて言つてちつと相手を見つめた

「私は今だつて前だつてお兄さまに對する氣持はちつとも變りはないわ」

「まあ本途に妙子さんは何ていじらしい人なんだらう

と云はんばかりに見詰た和子はさう言つて塊まり乘たはうに涙を流した、さうして細りさはして居るがもう娘らしく肉付いた少女の肩を抱きしめた

妙子も頭を相手の胸にすり付ける樣にして抱き付いた

二人は暫しの間あつい涙に呉れて居たがやがて和子は咽び泣きの内に言つた

「妙子さん、あなたも私も勇が恐ろしい罪を犯したなどとは信じません、けれども世間ではさう思つて居ます勇の味方は私たちと大方そのとき子さんと云ふ人だけでせう、あなたもどうかして勇の寃罪が晴れるように祈つてやつて頂戴な」

「ね……ねゝ」と妙子は何も相手の胸に取縋つて頷くのであつた。

けれども外の暗を一陣の古枯らしが立木を搖さぶつて吹き過ぎた時、妙子は急に和子の胸から頭を離して遠くを眺める樣な目付をして言つた

「私たちはかうしてストーブの側に居ますけれどもお兄樣はどんなに寒がつていらつしやるでしよう？」

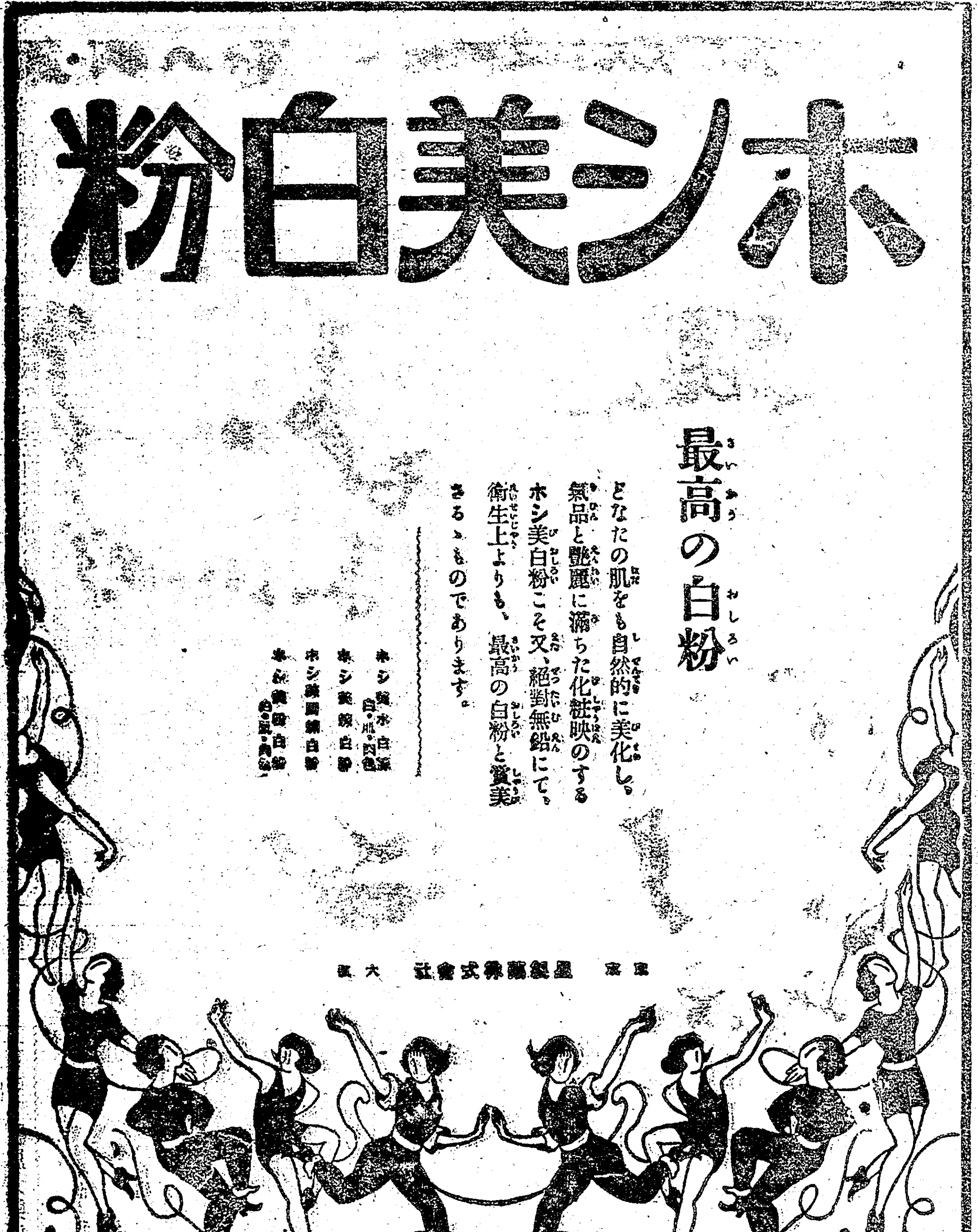
二人は何時までも手を取合つて暗夜の空を果てしなく過ぎ行くわびしい古枯らしの響きを追ふのであつた

芳醇無比
白馬の雪
松本徳一吟釀
電話（平）七五二

廣告

痔の最高内服藥　ダイサン錠
鼻のクスリ　チクノール錠
平町五丁目角
山野邊藥局

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番



ホシ美白粉

最高の白粉

どなたの肌をも自然的に美化し、氣品と艶麗に滿ちた化粧映のするホシ美白粉こそ又、絕對無鉛にて、衛生上よりも、最高の白粉と賞美さるゝものであります。

ホシ[illegible]水白粉　白・肌・肉色
ホシ美顏白粉
ホシ[illegible]練白粉
ホシ[illegible]白粉　白・肌・肉色

東京　星製藥株式會社

改正　片濱乘合自動車時間表

平發	五時三十分	六時三十分	八時	九時	十時	十一時	十二時十五分	一時五十分	三時	四時	五時二十分	六時三十分
江名發	五時三十分	七時	七時五十分	九時二十分	十時三十分	十一時五十分	一時	二時	三時三十分	四四[illegible]十分	五時四十分	六時四十分

平のりば　四丁目和泉屋前
新川町車庫
江名のりば　沖見屋　電話十四番
松屋

鈴木片濱自動車部
電話二一七
車庫呼出電話一四二

夜間診療
胃腸　十二指腸虫病　内科専門　内科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　専門　外科部
松村胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）

釀造元　清酒　世界
銘酒　各炭鑛御用達
石城小名濱町
吉清水屋
小野晋平
電話六番

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同優等賞受領
醬油釀造元
盬屋
山崎合名會社
電話一〇番

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ　生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二　西村屋藥舖　たばなし三番

御中元御贈答品には
贈るに御便利受けて御重寶な
三井の商品券
三井呉服店

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…
電一一二四番

知事に會つて 縣費負擔の増額を陳情

けふ小名濱委員出縣し 愈々最後の運動

小名濱築港問題は旣報の如く地元民の決死的復活運動により兎も角今年度工費五萬圓（國庫負擔一萬圓）を承認された、僅か五萬圓で辛じて事務所費と人件費に充て得るのみで到底事業進捗は覺束なきを以て此際縣は少くも十萬圓位を同工事の爲め支出の途を開くにあらずんば到底希望の一部にも充つる事が出來ないとし高木助役外委員は一日出縣小柳知事に陳情する事となつたが萬一縣が此の程度誠意と熱誠が無い場合は止むを得ないから運動一切を打切り來る可き政友會内閣の出現を待つて一擧に目的遂行を望むことが策の得たるものであるとの町民の輿論も擡頭して來たものの如く成行き注目さる

平三校入札

本工事は七日執行

平町第三小學校敷地整地工事入札は卅一日午前十一時町役場で執行の結果千五百五十圓にて南町只野忠康氏落札したが同日午前十一時から第三小學校新築委員會を開き協議の結果工費約六萬圓の本工事入札を來る七日午前十時から行ふことゝなつた

ぼつ〳〵下る 平の氷水

氷合戰の餘影

平町の氷合戰は旣報の如く卸値間に於てのみ白熱化し一般の氷水屋では一錢の値下もしないので義憤家連から値下しろと騷がれて居るが連日の炎天で薄利多賣で儲けやうとする氣のきいた氷水屋は三十日頃から率先して種物一杯十錢を五錢に賣ると宣傳安賣を開始したので一般の氷水屋もぼつ〳〵暴利の夢からさめて安賣に準ずる模様だから町民の喜びも一致し氷合戰の興味はいよ〳〵佳境に入つてゐる

傷害の告訴

活動歸りの喧嘩

石城郡江名町字北町鈴木宗彌は同町日雇業石井友次郎（三四）を相手取り平署に傷害告訴を提起したが理由は去る二十七日夜鈴木が同町に於いて活動見物をなしての歸途劇場入口に於いて些細のことから石井と口論をなし石井は鈴木の顔面を毆打しその上歸宅の途中を激擊して暴行を加へたものである

食器の不衛生から 中毒事件繁發

平、植田、四倉の各署が 嚴重な隨時檢査

平、植田、四倉の各署では夏季飲食物の取締に關し先に通達を發して清涼飲料水等の一齊檢察を行はしむることゝなつたがその結果不潔な餅、だんご、どろ〳〵したラムネ、サイダー、異物混入のこほり水等多數を發見し告發若しくは注意說諭處分に附するところあつたが

最近氣違ひじみた暑氣のため飲食物の腐敗から中毒事件が頻發し、これは殆んど食物の保存を誤つた爲めか、食器を清潔にして置かなかつた爲めであることがわかり

その結果各署に於ては隨時料理屋、飲食店等の食器檢査を行ひ一般家庭に對しては注意を發することになつた

平營林植栽

公有林に松杉を

平營林署では管内各村の官造林、公有林に檜、杉、赤松等の植栽をなして來たが植林面積は次の如し

（大久）二三五町五反七畝
（川前）七五四町三反九畝
（永戸）一九六町六反五畝
（好間）一四〇町七反七畝
（赤井）二九一町五反八畝
（下小川）一六七町八反七畝
（四郷）一〇六町四畝
（合計）一八九九町八反七畝

氣の毒なほど儲かる氷屋

店の作りは表涼しく中むし暑く

◆—氷水屋の内明け話

氷—氷—夏は何といつても氷がなくては夜も日も明けない、だから夏になると猫も杓子もお氷屋を始めたがる、勿論それといふのも店を出すに僅少の資本しかいらないためである、では果してそれらの店はどれだけの儲けを上げてゐるものだらうか

平町で一日に消費する氷はザッと四千貫から五千貫にも及むでゐる、此の氷代も少くないが例の天然氷と人造氷の騷動が初まつてから一貫目八錢に値下され、それなのに小賣氷水店は依然として昔氷水五錢、タネ氷十錢の高値で暴利つてゐるのでその儲け方つたら『藥九層倍』以上の大儲けで一日五六十貫目も賣つて尚ほ平氣な顔でゐる

勿論こんな店では二圓五十錢位の日給で、四、五人位の臨時傭を入れる譯だがそれでも夏中三ヶ月で一年中の家計を立てゝしまう、これら氷店の一般定法としては六月半から七月の盆迄にその大勢を決めてしまふことで、その僅々一ヶ月の間に八、九月の入費迄見てしまふのでこれは氷が八錢位の安値で溶けが少いためである、それ以後の儲けは丸儲となる

よく氷屋で『折り』といふ言葉を使ふがそれは氷の儲けは五割即ち半々を意味したものです

扨て一貫目八錢の氷が店ではどれ位かけるかといふと、例の器に二十五六杯、腕のいゝ男がかくと二十八杯から三十杯、細かい雪にすると三十二杯といふから凄い、又甘露は三升の水に三盆白一貫目を入れて煮詰るので、これが水だと小杓に一杯、種ものだと二杯、次に『いちご』その他の種物ですが、之等罐詰は卸相場三十六錢で、これが三十二杯に使へる譯でつまりいちご一杯は正味原價として三錢三厘と出來る譯で十錢で賣つても『折り』以上です

アイスクリームは牛乳二升、卵三十個を一鑵とすれば百個取りとなる譯でこれが原價二錢八厘、これを十錢で賣る譯である、勿論此の場合は鷄卵などを使へば黄味のないものが出來てまづいから直ぐ客にわかり客足を遠ざけるが、一番儲かるものは小豆アイスでこれは小豆一升（卅錢）の中へ砂糖五百目（一圓廿二錢）を入れこれで七十個位の小豆アイスが出來ます、これが出來る店は儲けは大きいが、店によると三盆白の代りにザラメを使ふ所もある、これだと約三割安だがザラメはアイスが溶けて來た場合には直ぐ客にわかるから餘程はける店でないとやれない—

次にどんな店がはやるかといふと、外目に涼しく見える店、中へ入ると蒸暑い店が第一、硝子の簾や瀧の繪は客を誘ふに効果がある

しかしこれも店によつてははやらぬ店もあるが、かうなると氣の毒に甘露は一晩しか保たず、煮直せば赤くなり氷は溶け放題で、どうにもならず益々焦つては客を逃がす結果となる譯がはやる店にこれと反對に益々儲けてそこに大きい隔たりが出來ます、以上氷屋は芋屋、豆屋、菓子屋、水菓子屋などの變身で、氷屋專門は少いがこれらの店は各々外目も違つて、それ相當の苦心をしてゐる譯です。

無限向上の一路

黨臭味薄き 立派な政黨人

萩原義雄氏

政黨人にして甚だしき黨臭味なく比較的粗暴野人の多い中に巍然一頭地を拔く人に石城民政黨幹事長の萩原義雄氏がある、貴公子然たる彼の風格と豪直な男性的俠氣とは人を統卒するの力と才に富み殊に崇高清雅なる人格の閃きは何人と雖も否む能はざる所である

人生に於ける最高　價値はその人格の高潔にある吾々は人間が最も强く共同的、同情的に發達した狀態を以て一切の目標として努力しなければならぬ事は萬古不易の眞理であると信ずる。

吾々の人格は修養次第無限に向上發展すべき可能性を持つてゐるのであるから、終生自己人格の修養を怠つてならぬ事は勿論である然し言ふは易く行ふは難しでその至難であるだけそこに限りなき味はひがあり樂しみがある

萩原氏の說く自己修養の要諦は上述の如く無限の向上を目的に始終し後進の指導誘掖に努むる處に氏の總ての生命が存在し畏敬さるゝ所以のものである

長野縣南佐久間郡内山村の名望家萩原辰次郎氏の二男にして山水明るき大自然に惠まれた一寒村に呱々の聲を揚げ東京齒科醫學專門學校を卒業後齒科醫學得業士の稱號を受け平町に移轉開業したのは大正元年十月である

開業爾來殊に專攻せる矯正齒科醫學は其の最も得意とする處にして幾多の難治難患を容易に全治せしめ其の專門的優秀なる技倆を認めらる、頭腦日に新たにして學理の研究と實地の練磨に怠りなく能く醫學の本分を盡し資性溫良篤實なる君子として名聲大いに揚る

平町會議員に當選すること二期政黨的私情を廢して專ら町治の向上革新に奔走し地方產業發展の爲め片倉磐城製絲會社の創設に貢獻し監查役の重任に就き政治に產業に絕大なる識見と勢力を傾注し飽くまで紳士的に石城民政黨を脊負つて起たんとする勇猛心は彼我ともに敬服措く能ざらしむるに充分である

令閨たけ子氏は夙に賢夫人の譽れ高く克く内助の功をおさめ文學その他趣味豐かな近代的婦人の典型として讃えられてゐる

一夜の宿を乞ふた 鮮人を毆打

亂暴茶屋の主人

石城郡内郷村大字宮字金飲食店三浦伊之助（四三）方へ去月十九日午後十一時頃元内郷村大字高坂字御殿居住坑夫朝鮮人山口金太郎事崔任重（三九）が宿めてくれと賴んだが頑固に斷り果ては拳骨を振り上げて金太郎の面部其の他を强打し全治三週間の重傷を負した平署に發覺取調を受けてゐる

渡り鳥の 求職人

平紹介所に斡旋

平町職業紹介所　昨今の狀況は相當の就職者があり求人へ申込みも相當あるので大部分就職せし若し適當口がない時は平紹介所と連絡をとつて同所を訪れて來たものは極力斡旋してやるが最近は渡り鳥の様な浮浪勞働者が多く動き出し毎日數人宛同所に來るが農家からは農繁のため動きは少い模様で收穫時まで一と先づ落ち付いてゐる

四倉の納涼會

日報平支局主催

磐城日報平支局主催納涼大會は來る四日（日曜）午前九時から四倉海岸海水浴場に於て開催する會費は五十錢に晝食付、外餘興として各種競技、大寶探し等あり盛況を豫想されてゐる

鮫川で今夜 燈籠流し

稀有の人出を豫想

石城郡南部の名物の一ツ錦村縣社熊野神社の祭典は今一日執行されるので午後七時より大字大倉地先の鮫川に於て大小五百餘の燈籠流しが催される、今年は七年目の大祭で深刻な不況に苦しんでゐる際とてせめて祭典だけは盛大にやらうと大倉青年團の張り込みで夕刻より十一時まで數十發の煙火を打上げ神社裡川端より流燈をなす順序であり夕涼みの時季とて植田勿來町方面より見物人多數參集すべく露店商人多く出し夏祭り氣分は濃厚となるべく萬一のため同村消防組及植田署では警戒を充分にする由

副業助長の機關に 果樹組合の聯合

各村に代議員を置き 相互の便益保護

石城郡果樹組合長打合會は既報の如く三十一日午前十時より平町郡衙會議室に開き協議の結果果樹組合の内容を改正し石城郡聯合果樹組合とし果樹生產地の内郷、赤井、好間、大野、平窪、神谷、小川、錦の各村から組合員二十八以上に一人の割合で代議員を設置し藥品肥料販賣等に就て便宜を計る外尚同組合生產の果實は東京方面まで大量に販賣され品種も好評を受けて現在の果實としては桃が一週以内で終り十五、六日頃から梨が出廻る而してこの果實は主に箱詰にし輸送するもので一目石城の果實である事を知らすため貼つてあるレツテルの圖案を一樣にする計劃で目下考案中である

火箸で毆る

廣を傷害で告訴

石城郡小名濱町居住玉川村南富岡生れ馬目廣（三七）は去月九日午後十二時同町字竹町上野臺邦太郎（三二）と些細の事より口論を始め廣は長さ一尺の丸金火箸を以つて邦太郎の左耳部を毆打し其場に昏倒したのを見澄し逃走した儘行衞を晦してゐたが邦太郎は全治二週間の重傷で平署に傷害の告訴を提出してきた

物々しい陳情團

けふ平土木監督所に 神谷村から大擧

平土木監督所に今一日早朝から農民團の一團体が物々しく押掛け所長に面會を求め騷ぎ立てゝゐたがこれは神谷村大字中神谷の部落民で夏井川の堤防欠壞復舊工事の如何は同地農民の生活を左右するから一日も早く施工して貰ひたいと復舊の陳情に出たもので當局では明二日より現場に出張調査の上工事に着手する事を言明したが右につき監督所長は語る

何にもこんな騷ぎはしなくても代表者だけで話は解るのだが同村は野菜の收入で殆んど年中の生活費に當てゝゐるので畑に田よりも重要であるがその畑が洪水毎に[illegible]されては死活問題だと騷ぐのも無理はなく早速調査上何とかする考へである

濱三木炭打合

濱三郡木炭同業組合の木炭檢查員、指導員の事務打合會は四日午前十時から四倉町太平館に於て開催する尚早川組合長以上出席する

磐城神職講習

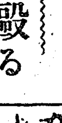
磐城神職會主催夏期講習會は三十日より八月五日まで七日間平町磐城訓盲院に於て開催中だが講師は國學院大學皇典講師大塚承一氏である

四倉重役辭任

株式會社四倉銀行取締役戸田雄章氏は二十五日辭任したが吉田頭取から三十一日縣に屆け出た

清野氏の嚴父

平町南町の看護婦會長清野キヨ子氏の嚴父は本春以來病の爲め泉村玉露の自宅に加療中の處三十一日夜遂に逝去、葬儀は三日午後二時泉村自宅出棺執行すると



◆保險勸誘、寄附金强請、賣藥や化粧品の押賣等々には大分苦しめられるが根氣くらべをしてるのがある

◆先づ何處でもやるように入口に〇〇新聞配達御斷りと貼紙して置いたが、相變らず配達が止まらない。ハテ、マサカ字の讀めない配達でもあるまい、今度配達の現狀を認めて斷つてやらうと機會をねらつてると好い若い者が貼札を横目にらんで新聞を投げ込む、逃げるように飛び出す早業

◆こんなのが新聞代の取立の時、見ない新聞なら一ヶ月分揃へて出してくれなんて並べ立てるそうだ、東京

○新聞の名義にも關係することだから注意すべきであらう

（南町一讀投）

平町田町
高久病院
電話五一三番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地が然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入 壹俵 金 六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナノ玉炭
一、玉 炭 大俵壹俵 金 貳 圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前
阿部石炭商店
電話二三七番

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

例年の通り中元謝恩爲普通席金十錢割引期間二週間限
一日ヨリ謝恩大興行
松竹キネマ大作品 主演阪東壽之助 芳月孔雀 千早晶子
悲劇 狼籍者 全
討つ者、討たれる者、夫々に描し出す、刀たくの武士道を中心として展り行 悲譚
松竹現代派超特作不朽の名作 原作國木田獨歩先生
名著 富岡先生 全
八雲恵美子 岡田宗太郎
長州の城下を背景に維新の快傑が明治の生活は[illegible]
日活時代劇派傑作中の傑作 原作佛文豪ボイクトルユーゴー氏 主演 鳥羽陽之助 其他
噫無情
常磐操子、梅村蓉子、澤村春子
人世の受難者ジャン・ヴァルジャンの涙 血史を時代化したもの
日活松竹 平館 電話四六六
愈十六日ヨリ公開◀沓掛時次郎▶獨唱松下京子